

私は、母校である市立 I 高等学校に教育実習に行きました。ホームルームと保健の授業は 1 年生、体育の授業は 3 年生を担当しました。授業の内容は、体育はバスケットボール(男子)、バドミントン・テニス(女子)を行いました。保健は「喫煙と健康」という分野を行いました。初めの一週間は授業見学の予定だったのですが、朝一番に指導教諭の先生の所に挨拶に行くと、「初めから全てやってくれ」と言われて、実習初日から授業を行うことになりました。授業を行うまでは不安や緊張でいっぱいでした。しかし授業を実際に行うときには緊張もなくなっていました。3 年生は私が指示したことを何も言わずにやってくれて、授業にも協力的だったので非常にやりやすかったです。体育では、生徒の安全を第一に考えることが大事と言われました。そのためには場の設定が大切だと学びました。日光の向きや他の授業の場所・種目を考えて集合場所や用具を置く位置を決めること・考えることなどの指導もされました。他には声の強弱や緩急、なぜこの練習をしなければいけないのかを伝えることなどがありました。私自身が体育の授業の内容は苦手だったので生徒に協力してもらいながら授業を進めました。さらに指示ではなく指導をしろとも言われました。どうすれば上手くできるのか、何がいけないのかを伝えないと授業とは言えないと厳しいことも言われました。保健の授業では、まず目線について注意されました。私は準備した資料を見ることが多く視線が下に向いていたので、教室の後ろまで見渡せと指示されました。内容についてはよく勉強していると褒めていただきました。細かい部分では発問の量や板書の工夫、一番言われたのは生徒参加型の授業にするための工夫です。教師からの一方的な授業では生徒をやる気にさせることは難しく、学習効果も低下すると思います。授業は生徒のためにあるものなので生徒自身でディスカッションしたり、発問を投げかけたりして生徒が授業に興味を持つような工夫をしなければいけないと学びました。特に座学では寝てしまう生徒もいるので、いかに退屈させずに、授業を楽しませることがポイントだと感じました。体育でも保健の授業でも共通していえることは、良い準備を行うこと。準備の善し悪しで授業の質は変わってくると思います。いかに教材研究できっちり授業の準備を行うか、準備したその材料を整理・吟味し、あとは適切なタイミングで使うことができれば、質の高いスムーズな授業ができることを学びました。

体育大会にも参加しました。私は会場の設営や運営で忙しくゆっくり見ることは出来なかったのですが、体育大会のような学校行事には多くの教員の協力があり成り立っているのだと改めて感じると共に、教員の方々の仕事の多さや大変さが分かりました。自分のことが忙しく、生徒とも接する機会も少なく、もう少し話したかったです。しかし最終日には寄せ書きをもらったり、明日から寂しい等と言ってもらえて凄く嬉しかったです。これが教師という仕事の魅力だと感じました。この教育実習で教師になりたい気持ちも高まりました。この実習での経験をこれからの自分に生かしていこうと思いました。疲れましたが充実した 3 週間だったと感じています。